

令和元年

事業所名： グループホーム メルシー長橋 いわてさん

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100063		
法人名	有限会社 メルシー		
事業所名	グループホーム メルシー長橋 いわてさん		
所在地	〒020-0146 盛岡市長橋町5-15		
自己評価作成日	令和1年6月1日	評価結果市町村受理日	令和1年8月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の能力に応じて、料理や掃除などを役割分担し、自立した生活を送ることを目的としています。住み慣れた場所で安心して暮らせるよう、お世話させていただきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&amp;JiyosyoCd=0390100063-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kajokensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&amp;JiyosyoCd=0390100063-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

盛岡市の西方に位置し、近くに大型店・JR・国道・通所福祉施設がある開設12年目を迎えた2階建て(2ユニット)の事業所である。自己評価に全職員で取り組み、理念を共有し職員同士の信頼関係に基づく協力体制が築かれている。医療・看護連携が密で、日常の健康管理と共に、重度化した場合の対応や終末期ケアも充実し、家族の高い期待と評価を得ている。共用のホールでは、利用者は表情豊かで、生き生きと職員との関わりを楽しんでいる。ことばを発しない方も、笑顔でホールの定位置に寛いでいる。動物(猫)セラピーを行い利用者も職員も癒されている。管理者と職員のコミュニケーションも良く、毎年家族アンケートを実施し施設長・管理者が核となって意見・要望を取り入れ、積極的に改善を図っている事業所である。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和1年6月24日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

令和元年

事業所名：グループホーム メルシー長橋 いわてさん

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で安心して生活できるように、利用者さんを支援しています	開設11年目の昨年、全職員で見直しを図り「敬意を持って接する」「安心できるケア」「声かけ、傾聴」の三つを理念とした。毎朝、職員で唱和し利用者が“落ちついて生活できる”ケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期の集まりに出席したり、施設に地域の方を招いたりして交流しています	自治会に加入し、盆踊り、防災訓練などの地域行事に参加している。毎月の保育園児との交流や中学生の体験学習も受入れている。事業所情報を掲載し「長橋便り」を近隣の全戸に配布し、地域の方々に芋の子会や敬老会をご案内している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練や推進会議などで認知症状や介助方法などを地域の人に伝える場を設けています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催して地域の方や、職員との意見出し合っています	委員である自治会長、民生委員、福祉施設長、保育園長、利用者から活発な意見が出されている。委員から、他の事業所での子供に話すような言葉遣いと比較し、当事業所での対応を評価する意見を頂いている。	消防関係者や警察関係者を講和等のゲストとして招くなど、議題を絞って認知症や事業所の理解を深める機会とすることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域のケアマネージャーや福祉関係者と連携を取り、協力できるようにしています	運営推進会議委員の地域包括支援センター職員から意見・助言や各種情報を得ている。地域包括支援センター主催の「ケア会議」に参加し、関係機関との連携が図られている。昨年、総務省の調査に協力するなど、行政との協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者一人一人の意見を尊重し、自分のもてる力を生かし身体的、精神的に安心して暮らせるように取り組んでいます	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的な研修を通じ職員間の理解を深め合っている。言葉による行動抑制など不適切なケアがあった場合には、職員間で声かけをしている。床センサーは利用しておらず、履物に鈴を付けることによって転倒防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の介助に対する意識を日々話し合いながら防止できるように考えています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生年後見人制度を利用している利用者は居ますが、勉強会などはできていません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては必ず家族の方に説明をし質問を受け、理解、納得をもらうようにしています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族へのアンケートを実施し、意見、要望を張り出しインターネットで見られるようにしています	事業所で年1回家族アンケートを行い、結果を掲示している。個々の要望や意見には、個別に回答している。歌が好きだから歌をとりいれてとの要望には、全体の活動で対応している。利用者ごとに、「〇月の〇〇様のおたより」として、生活状況・身体状況・写真・担当職員の手書きのコメントを記入し、送付している。家族は、事業所での様子が分かるかと好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見など出た時などは、管理者に相談し反映させています	職員の自己評価を基に、年2回管理者が個別面談を実施している。スキルアップや資格取得の支援や職員同士で助け合いながら休憩時間を確保するなど、働きやすい職場作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすいように、環境を改善したり、給与のアップなどやりがいを持てるようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる取り組みでエルダー制度を取り入れながら、日々個々の技術向上を考えながら行っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同業者との交流は、ほとんどない現状です		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話を聞く機会を作り努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に情報を確認し入所後にも話をする機会を作るようにしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前と入所時に希望を聞き、努めるようにしています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々、気づいた事があったときは本人に話しかけよく聞くようにしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に何回か行っている企画や面会時に家族の方と話をするように心掛けています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	本人に残っている記憶を会話の中から引き出せるように努めています	今まで遠方の事業所を利用していた方が、当事業所に入居し、家族が知人に伝えた事で面会が多くなった方がいる。訪問理容を利用し、来所する理容師と馴染みの関係が生まれている。入居時のアセスメントで把握できなかった事柄を日々の会話から汲み取り、馴染みの把握に努めその関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合いそうな方同士の座席をかんがえ、リラックスして過ごして頂けるように工夫しています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所して後も、必要に応じて支援するようにしています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なじみのものを取り入れたり、趣味などホームでも継続できるように意向を大切にしています	新聞を読んでいる、或るいは自分のエプロンと間違わずに取り出している姿など、日々の行動から感じ取った利用者のかや職員の気づきをノートに記入し、職員間での共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に本人の情報に目を通し家族からも情報を得るようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、日誌、申し送りなどをスタッフ間で共有し、毎日の変化を気づけるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスなど、月に1度から6ヶ月毎に話し合いをし、ケアプランに反映しています	入居時の初回プランは1ヵ月後、居室担当が中心となりモニタリングし、管理者・職員によるサービス担当者会議での評価を経て、医療や看護の情報を加味している。介護支援専門員がそれを基に介護計画を作成し、家族に説明し同意を得ている。「サービス日課表」が丁寧に作成されており、きめ細かな介護計画がチームで検討、共有されている様子が窺われる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日行い、変化があったときはスタッフ間で把握するようにしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリ、ボランティア、外出などニーズに合わせて対応しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームでの避難訓練時に町内会が参加するなど地域の協力を得ています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力医が訪問診療を行って適切な医療を受けられるような体制をとっています	月2回、協力医療機関の医師による訪問診療とその看護師による健康チェックが交互に行われ、日常の健康管理と早期の対応が図られている。必要時には皮膚科や歯科の訪問診療もあり、適切な医療を受けられる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回協力医の看護師が訪れ、健康チェックを行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、退院時は付き添いし、入院中はこまめに病院関係者と情報交換を行っています		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、体調変化時その都度家族の意向確認をしています	重度化や終末期に向けた方針を入居時に説明し意向を確認し同意を得ている。体調変化時には、その都度、家族に意向を確認し、医師や家族と協力して対応している。看取り時には家族が泊まることもある。職員の意識は前向きで、看取りの体制は整っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応の訓練を定期的に行っていないのでこれから実践していかなければと思います			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練を地域の方々に協力して頂いて定期的に行っているため、年に1度は水害などを想定した訓練も行なっていきたいと思っています	消防署員の立ち合いを含む年2回の避難訓練を行っており、加えて、1、2階合同の自主訓練として、遅番、夜勤の4名体制で日没時に夜間を想定した避難訓練を実施している。特に2階からの避難に備え、日頃から努めて階段を昇降するようにしている。地区の自主防災隊と連携し、また、自家発電機を備え飲料水・食料を備蓄している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々一人ひとりに合わせた対応を心掛けています	一人一人を尊重し特性に応じた「言葉遣いに注意し、無理強いしない」ケアに努めている。入浴や食事を嫌がる場合にも強制することなく、職員が悪い役、善い役を演じ、利用者の自発的な行動を促している。居室入口に暖簾を掛け、プライバシー確保に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問がクローズドクエスチョンにならないよう、できるだけ利用者さんの意向に添うように心掛けています			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度、一日のリズムが決まっているので希望すべては聞き入れないが、できるだけ意向に添うよう心掛けています			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えをする時に自分で選べる方は選んで頂くが、そうでない方はその方のイメージを崩さないようにしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いをして頂ける方は限られているが、その人ができることをやっています	食事時、職員は、時間かけてゆっくり食べる様子を見守りながら介助している。ご飯と味噌汁は職員が調理し、おかずは配食を利用している。盛り付けや食品の彩りに気を配っており、陶器の食器も家庭的である。誕生日・母の日・父の日には、希望のちらし寿司などの行事食を提供し、楽しんで会食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に水分補給は徹底して行ない、食べられない方(時)には、アイスクリームなどで栄養バランスを取るよう支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行い、一人で出来る方は少ない為職員が清潔保持できるよう介入しています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツを履いていても定時にトイレに誘導し、できるだけトイレで排泄できるようにしています	排泄介助は、さりげなく丁寧な声掛けや誘導を行っている。個々の状態に合わせて、布パンツ、紙パンツ、パット、オムツを着用し、自立に向けた支援をしている。全員がトイレで排泄し、排泄後はタオルで清拭し清潔を保持している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のことを考え水分量には十分に気を配り、ラジオ体操やリズム体操などで体を動かし、週3回ヨーグルトで腸内環境の改善に取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴と汗をかいた利用者の要望にシャワーをすすめています	週2回の入浴が基本だが、浴室は毎日準備しており週3回利用される方もいる。季節には菖蒲湯や柚子湯を楽しんでいる。入浴を嫌がる方には無理強いせず、職員が悪役と善役を演じたり他の職員が変わって対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の決められたリズムの中で体調に応じて休息していただくようにしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬を理解し小さな変化の確認に努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	メリハリのある生活を送って頂けるよう支援し、中でも嗜好品にはできるだけ添うようにしています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば出来るだけ外出支援するようにし、日常的に買い物、散歩など外出しています	近くの公園への散歩や、日用品、菓子、食材の買物に出かけている。花見や近くの行楽地へのドライブを楽しんでいる。車椅子利用者が増え歩行機能が低下し、戸外へ出る機会は少なくなっているが、天気の良い日には極力外気浴をし、気分転換を図るよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前はお金を持って買い物をしていた利用者さんがいたが、今は理解できなくなり現金を持っている利用者さんはいません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	毎日弟さんから絵葉書が届き楽しみにしている利用者さんがいます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔さに気をつけ季節の花などを飾り、適切な温度、適切な光など教養空間に配慮しています	ホール兼食堂に食卓、椅、ソファーが配置され、1階には猫ハウスがあり長毛のクールな猫に癒され、2階からは岩手山が眺望できる。冬季は蓄熱暖房で快適な共有空間である。ホールでは、利用者と職員の笑い声が聞かれる。男性利用者の比率が高く、声が出ずとも、笑顔でそれぞれの居場所に寛いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外を見られる窓際に席や、猫の近くに席に座るなど自由に過ごされるようにしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳を敷いて自宅の雰囲気を出し、居室で居心地よく過ごせるようにしています	居室入口に利用者毎の好みの暖簾が掛けられ彩りを添えている。エアコン・棚が備え付けられ、ベッドは持ち込みとしている。畳に布団を置く方もいる。机、鏡台、衣装ケースなどの使い慣れた物が置かれている。男性は私物が少なく、簡素な居室が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事のお手伝いをしていただき共同生活を楽しめるよう工夫しています		